

平成 23 年度第 4 回テンミリオンハウス事業採択・評価委員会議事録

- 日 時：平成 23 年 12 月 22 日（木）18：30～20：55
- 場 所：市役所東棟 8 階 802 会議室
- 出席委員：6 名（欠席 2 名）
- 事務局：高齢者支援課、保育課、市民社会福祉協議会

1 開会

2 配付資料確認

事務局より事前配付資料の説明

3 報告事項

高齢者支援課長による運営団体変更に関する進捗状況報告

4 議事

（1）平成 24 年度事業計画採択

運営団体ヒアリング 第 1 グループ

（くるみの木、きんもくせい、関三倶楽部、川路さんち）

【委員長】 本日は各運営団体の皆様から平成 24 年度の事業計画についてご説明をいただき、その後委員から質問をさせていただきますので、ご協力をお願いします。それでは、くるみの木から宜しくお願いいたします。

【くるみの木】 今年の 10 月に運営団体であるワーカーズどんぐりの 10 周年、テンミリオンハウスくるみの木の 3 周年記念行事を行うことができました。くるみの木も無事 3 周年を迎えることができ、本当に嬉しく思っています。

くるみの木の平成 24 年度の計画は、基本的には今年度と変わらず実施していく予定です。しかし、これまでの 3 年間で良い部分もあれば悪い部分も見えてきましたので、スタッフの皆と話し合い、悪いところを直し、良いところを深めていくという内容で実施していきたいと思えます。また、3 年間の運営の慣れから、報・連・相（報告・連絡・相談）など基本的な部分を見落としまうところもあります。そういった部分を来年度は大事にしていきたいと思えます。

プログラムについては、手話ソングを新たなプログラムとして考えています。これは、くるみ祭の中でスタッフが手話ソングを出し物として実施した際に、利用者から「やってみたい」との声があったため、プログラムに取り入れることにしました。

基本的には午前中が体操や心身が元気になるプログラム、午後が趣味や講座といったプログラムを実施していくという方向に変わりはありません。

くるみの木では、スタッフの人数が多いため、ボランティアとして入っただけの体制はできていないと思います。それでも様々な形でこの運営の中で積み上げてきた地域の方達やサポーターの方達とのコミュニケーションの結果、少しずつでもボランティアとしてお手伝いいただけるようになりました。よって、もう少し様々な話をした上で、ボランティアに入っただけのような体制を整えたいと思います。

また、くるみの木ではレスパイト事業を実施していますが、利用が少ない状況でした。今年 10 月にはワーカーズどんぐりが自立支援法に基づく事業所になりましたので、今後はもう少しご利用いただけるよう PR していきたいと思えます。

今年の 11 月 30 日には、初めて「くるみナイト」を実施することができました。かなり好評だったので、来年は少し実施数を増やしたいと思います。利用者のほか、地域の民生委員や地域福祉の会の方など 16 名程の方々に来ていただき、大変良い会になりました。

資金計画の中では大きな変化はありませんが、東京都の最低賃金が上がったことに合わせ、スタッフ賃金を 837 円としました。

【委員】 2 点伺います。

- ① 手話ソングについて、手話をして楽しむほか、聾の方との交流はお考えですか。
- ② レスパイト事業について、自立支援法に基づく事業者になったことでどのような変化が具体的にあるのでしょうか。

【くるみの木】 手話ソングについてはおっしゃる通りで、手話をする事は障害の方と交流をすることであると理解したところです。手話ソングは利用者に観ていただいた際、意味のある歌であることを理解していただいたものなので、きっかけとして来年はプログラムに入れることになりました。具体的に聾の方達との交流をどのように行うか考えてはいませんが、将来的に視野に入れています。

レスパイト事業について、自立支援法に基づく事業者になったことへの変化は、検討中です。利用料金については変わってくる可能性があります。ワーカーズどんぐりの行っている事業なので、それをくるみの木にどのように反映できるかは検討中ということです。ただ、ワーカーズどんぐりが事業者になったことで障害の方の利用が増え、それに伴いくるみの木への利用に繋がる可能性があると考えています。利用料金については市の障害者福祉課とも相談の上、検討したいと思います。

【委員】 資金計画について、最低賃金改正により単価を上げられたということですが、スタッフ人数は変わらないということでしょうか。

【くるみの木】 変わりありません。1日のスタッフ体制としては、午前9時から午後5時が2名、食事スタッフが午前9時半から午後2時半で2名となっています。

【委員】 収入について、利用者の食事費収入を増やしていますが、これは食事の日数を増やしたのか、それとも食数を増やしたのか、あるいは実績に近づけたということでしょうか。

【くるみの木】 実態に合わせて詳細に計算した結果、食数が増えたためです。なお、上限の20食に変わりはありません。

【委員】 レスパイト事業について、障害者福祉課とも相談の上行うとのことでしたが、自立支援法の事業を行なうということはテンミリオンハウスで介護保険事業を実施するということと同じではないかと思えます。そうなりますと、他のテンミリオンハウスにはない新しい形になりますので、障害者福祉課だけではなく、高齢者支援課ともよく相談した上で実施された方がよいと思えます。

【くるみの木】 私達も基本的には自立支援法の事業をくるみの木で行うことは無理だと考えています。ただ、レスパイト事業の利用者が増えるという点では、ワーカーズどんぐりが自立支援法に基づく事業をすることで障害の方達との関わりが増え、くるみの木に来所いただくこともあるかと思えます。利用料金についてはちょっと難しいかなとは思っていますが、なるべく安くしたいので、ワーカーズどんぐりの事業との関連で何かできないかと模索しているところです。よって、事業自体を変えるという考え方ではありません。

【委員】 くるみナイトについて、もう少し詳しく教えてください。

【くるみの木】 午後6時から午後8時まで行いました。料金は500円でワンドリンク付きです。くるみの木スタッフが作ったエスニックの軽食を提供し、大変喜んでいただけました。もちろん最初から持ち込み可としていましたので、

お酒やお食事を持ってきてくださった方もいらっしゃいました。

【委員】 くるみナイトの中で行われる地域懇談会とその他の地域懇談会の2種類ありますが、それぞれどのような形で実施されているのでしょうか。また、くるみの木からはどのような方がこの地域懇談会に参加されているのでしょうか。

【くるみの木】 年1回に実施する地域懇談会は昼間に実施し、くるみナイトに来ていただいた方とほとんど変わりありませんが、地域の方達と行うものです。くるみナイトを何故地域懇談会と位置付けたかと言いますと、ただの飲み会にしたくなかったという思いがあるからです。くるみナイトの中で、お酒を飲みながら地域のことを題材に色んなことを考えていくという前提で実施しました。くるみナイトには、福祉の会の会長や民生委員の方にも来ていただきましたが、肩書関係なく、一般の地域の方として参加いただきました。ただ、役職はご紹介しながらお互いに地域のことを語り合いましょうというスタンスで行ないました。スタッフは準備した者と別の者が、この会を一緒に楽しむメンバーとして参加しました。

【委員】 吉祥寺本町側からも地域懇談会へ参加されていますか。

【くるみの木】 吉祥寺本町在宅介護支援センターからも来ていただいています。

【委員長】 乳幼児親子の受入れを計画の中に入れていますが、これはどのような事業内容を考えていますか。

【くるみの木】 2、3組の親子が来所され、食事をされていくという状況であって、利用者との交流はありません。

【委員長】 世代間交流まではいっていないということですね。

【くるみの木】 はい。乳幼児親子の受入れという点ではその通りですが、保育園との交流の方が、歌を毎月歌いに行っているのので、世代間交流がなされていると思います。

【委員】 資金計画の支出面で、印刷製本費が前年度予算に比べて大きく減少している点と、研修費を0円にした点について理由をお聞かせください。

【くるみの木】 印刷製本費については、今年度リーフレットを作る目的で計上していた分が、来年度は作成しないため減少したものです。研修費については、来年度ワーカーズどんぐり本体で支出しようと考えているため、計上しませんでした。

【委員長】 ありがとうございます。続いて、きんもくせいをお願いします。

【きんもくせい】 今年には東日本大震災もあり、地域の絆の大切さを実感した1年となりました。境4丁目の地域福祉の会の方や民生委員の方などから、この地域に町内会のようなものを作りたいというお声かけがあり、地域との関係を強めていく必要性からも、きんもくせいを会場として現在関係者と調整しているところです。

運営の内容について、きんもくせいで最も人気のあるプログラムはパソコン教室であり、その次に人気があるのは健康麻雀です。利用者はほとんど女性ですが、男性で指導いただけるボランティアの方がおり、単なる遊びではなく、麻雀の点数計算や動きを読むといったことに力を入れてご指導いただいていますので、利用される方は80歳代の方がほとんどですが、非常に体も頭も使った健康的なプログラムになっていると思います。

実利用者としては、月に約130人の方にご利用いただいておりますが、その内50人は80歳以上の方です。70歳代の方が70人くらいで、残りは60歳代という状況です。利用者の皆さんは実年齢よりも見た目が本当に若いので、テンミリオンハウスの意義を改めて痛感しています。

また、年間で様々なイベントを行っており、作品展やバザー等を実施しています。

食事については、利用者から好評をいただいておりますので、楽しみにしていただいている方もいれば、きんもくせいのランチメニューを夕食の参考にしたいと言う利用者の方もいます。また、男性の方にも利用いただいております。

このようなことから、きんもくせいの役割は非常に大きいのではないかと感じておりますので、来年度もより多くの方にご利用いただけるよう頑張りたいと思います。

【委員】 防災に絡めて地域の方と集まる機会を設けているということですが、会場の提供と併せて、きんもくせいとしてどのように関わろうとお考えですか。

【きんもくせい】 民生委員の方がご近所の方へ声をかけ、夕刻にきんもくせいへ集まり、少し飲みながら忌憚のないご意見を地域の方から集めています。まだ手探りの状態なので、3回実施した程度です。まだ形にはなっていませんが、独歩の森を守る会の方等にも参加いただいておりますので、まだまだ話し合いを重ねていく必要はあると考え、地域の方が地域の中で孤立するのではなく、知り合いになれるようなことを模索したいと考えています。

【委員】 資金計画について、収入の前年度繰越金 40 万円減少により支出を調整していますが、その項目として非常勤職員の給与を調整しています。これは単価や時間等どこで調整されたのでしょうか。

【きんもくせい】 今までは曜日ごとにスタッフを固定していましたが、曜日ごとだと特定の利用者としか話ができないので、より多くの利用者と触れ合っていたくために、今年度から曜日を変更するようにしました。また、曜日によっては利用者が多い曜日と少ない曜日があるため、そこで効率的なシフトが行えるよう来年度は細かく計算して調整しました。

【委員】 その他非常勤スタッフ賃金の中で、本部アドバイザー、総務経理人件費が計上されていますが、これは実際に施設に来て業務を行っているのでしょうか。

【きんもくせい】 施設に来る場合ももちろんありますが、運営団体であるワーカーズコープ自体全国組織であるため、各事業所に全国のコンピュータと結ばれている端末があり、通常はその端末で月の締め等の経理作業を本部で行っています。

【委員】 来年度特に力を入れて取り組みたいことの中に、「シニアネットむさしの」に引き続き参加し、役割を果たしていきたいとありますが、具体的にはどのようなことでしょうか。

【きんもくせい】 シニアネット設立の時から関わらせていただいています、これから高齢化する中で、シニアネットの役割はもっと色んなところに出てくると思いますので、もっと関わっていきたいと思います。テンミリオンハウスとしての役割は決まっていますが、もう少し広い観点から自分達が住んでいるところを見るということも大切だと思いますので、シニアネットの活動から学んでいきたいと考えています。

【委員】 具体的にはこれからということでしょうか。

【きんもくせい】 具体的には決まっていません。

【委員長】 ありがとうございます。それでは、続いて関三倶楽部お願いいたします。

【関三倶楽部】 関三倶楽部の平成 24 年度の内容は、今までと同様、利用者の様々な要望にお応えできる関三倶楽部でありたいと思います。

来年度の目標は、近隣在住の方が高齢者福祉に求めていることを把握し、それに応じて実行していくことです。そのために、介護についての悩みや愚痴等

を相談できる「かけこみ介護相談」を考えています。独居の方や高齢者のいるご家庭のお役に立つことができればと思っています。必要に応じて、市役所や在宅介護支援センター、ケアマネジャーへと繋いでいきたいと思っています。

Let's Try は、実際にご自身の体で体感していただける講座内容にしたいと思い、年に2、3回程開催していきたいと思っています。

【委員】 「かけこみ介護相談」について、具体的にどのようなことをお考えでしょうか。

【関三倶楽部】 具体的にはこれからですが、イメージとしては身近で困っていることを誰かに聞きたいという時に、気軽に入っただけの場所にしたいと思っています。介護保険でどのように対応すれば良いのか分からない場合も、運営団体であるパーソナル・ケア吉祥寺にはケアマネジャーもいますので、市役所や在宅介護支援センターの他、細かなことを説明できるため、そのような場にできればと考えています。

また、ケアマネジャーでご自宅を訪問する機会が多いのですが、孤立しているご家族が多いという印象を持ちます。その方の生活レベルやご家族の事情に関わらず、介護は家族内で処理されるものと考えられていることが多く、市役所や在宅介護支援センターに相談するということまで考えが及ばないケースがほとんどです。よって、もう少し敷居が低く、「ちょっと聞きたい」というレベルでの相談になると良いと考えています。また、Let's Try の方にも来ていただいて、介護の勉強もしていただければと思います。

【委員】 資金計画について以前お伺いした際、実質的には赤字であり、その分を法人が負担しているという状況とのことでしたが、現状は少し改善されたのでしょうか。

【関三倶楽部】 法人で負担することはなるべく避けたいと思っています。ただ、私達がやりたいと思うことに対して資金が足りないのであれば、それは仕方がないと考えています。

【委員】 ボランティアについて、施設の特徴から受け入れが難しいと思いますが、施設を PR する意味でも、可能であれば受け入れていただいた方が良いと思います。実際に地域の中では、そのような要望等がありますか。

【関三倶楽部】 特にこちらからも希望していませんが、要望もありません。

【委員】 ご希望があれば対応は可能でしょうか。

【関三倶楽部】 ボランティアの内容によります。利用者に関わることになるので、要介護度が高い利用者が多いので、介護の知識や技術がないと難しいと思

いますし、そのことについての責任は取れないと考えています。窓ガラスを拭いてくれることや、植木を切る等のボランティアであれば受け入れることができます。

【委員】 ボランティアについて、折り紙を利用者と一緒に折るなど方法はかなりあるのではないかと思います、いかがでしょうか。

【関三倶楽部】 そういう特技のある方であれば良いと思いますが、利用者の状況が不定期なので、お願いがしにくい状況にあります。

【委員】 平成 24 年度で特に力を入れて取組みたい内容の中に、緊急ショートステイと個別対応のより一層の充実とありますが、1日の勤務体制においてスタッフの増員を考えているということでしょうか。

【関三倶楽部】 基本的には、現在登録しているスタッフで増員をします。

【委員長】 地区別ケース検討会はどこが中心となって行っている事業でしょうか。

【関三倶楽部】 市が行っています。在宅介護支援センターでケアマネジャーを集め、ケアマネジャーの質の向上のために研修がされています。

【委員】 資金計画について、テレビ受信料が上がった理由をお聞かせください。

【関三倶楽部】 地上デジタル放送化に伴い、ケーブル TV においてケーブルを引いたため、初回の工事費がかかる分を計上しています。

【委員】 テンミリオンハウスではテレビを置いているところとそうでないところがありますが、関三倶楽部では利用者はテレビを観るのでしょうか。

【関三倶楽部】 テレビを観る方もいますし、ビデオを観る方もいますので、関三倶楽部では必需品です。

【委員長】 ありがとうございました。続いて、川路さんちお願いいたします。

【川路さんち】 川路さんちは 11 月に、お陰様で 12 周年を迎えることができました。川路さんちでは、昼食がメインであり、午前中から来所され昼食を食べ、午後 3 時前に体操をされてからおやつを召し上がり、午後 4 時までの間に帰られるというのが 1 日の流れになっています。

年齢を重ねると様々なことを忘れがちになりますが、そのような高齢の方よりももう少し若い方が認知症になり、在宅介護支援センターに相談して状況に応じた施設へ移ることや、財産関係は福祉公社へ相談したこともあり、高齢化に伴い地域の関係機関との連携が更に必要になってくると思います。

来年度からスタートする第五期長期計画の中でも食育がうたわれていますが、高齢者の食事も本当に大切だと思います。初めて来られた方でも、偏食の多い方がいたりしますが、2ヶ月経ちますと全部召し上がるようになりました。食事をすると元気が出ますので、食事は本当に大切なことであると実感しました。食事はこれからも力を入れていきたいと思っています。

男性の利用者について、将棋をやりたいという方が最近来られ、毎週将棋を楽しみに来られるようになりました。川路さんちでは健康麻雀を行うことは家の構造上無理だと考えています。将棋だと静かに行えると思いますので、将棋や囲碁を実施していければ、男性利用者が増えることに繋がるのではないかと考えています。

スタッフへ近所に独居の男性高齢者がいるか伺ったところ、それほどいらっしやらないということが分かりました。また、在宅介護支援センターに聞きましても、西久保の地域には余りいないのではないかという話でした。よって近所には独居男性が少ない状況ですが、男性利用者を増やしたいということでアンテナを張っていれば、男性利用者も増えてくるのではないかと考えています。

【委員】 中長期目標の中で、若いスタッフの参加を呼びかけるということですが、平均年齢で言いますと何歳程度を目標にされているのでしょうか。

【川路さんち】 40歳代から50歳代の方を入れたいと思いますが、その年代の方々は大概お仕事をなさっているので、難しい状況にあります。

【委員】 川路さんちで言えば、ビアパーティーの時に沢山の地域の方がお手伝いに来てくださっていたと思います。そのような方達にお願いをしてはいかがでしょうか。

【川路さんち】 お願いをしますが、やはり皆さん仕事がありますので、難しい状況です。

【委員】 確かに、定期的になると難しいのかもしれませんが。その伝手でも良いので、紹介してもらえると良いですね。地域との繋がり、人脈はありますので、心配することはないと思います。

【委員】 各種プログラムは事業計画書の中でも曜日別にご記入いただくことはできないのでしょうか。

【川路さんち】 ご要望であれば、そうすることはできます。これまでは初めて来所された方へパンフレットを渡していました。また、月に2回なので、参加したいプログラムがあれば、口頭でお伝えしていました。

【委員】 資金計画について、利用者食事費収入が今年度より増えています。

その理由を教えてください。

【川路さんち】 500 円×1日の平均利用者人数×年間開所日数で計算しています。1日平均利用者数を今年度は10名で見込んでいましたが、実態に近づけて12名で計算したことにより、増えたと思います。食数はスタッフも含めて1日20食を上限としています。

【委員】 若いスタッフの参加について、最近ではそ～らの家のスタッフが若返ったという例があります。既になさっているかもしれませんが、そのような施設と意見交換しては良いのではないかと思います。

【川路さんち】 はい。検討します。

【委員長】 ケース検討会等の実施を年に2回予定しておりますが、これほどのような形で行うのでしょうか。

【川路さんち】 在宅介護支援センターから職員に来ていただき、利用者の方で気になるケースの相談や在宅介護支援センターから高齢者への健康管理等の情報をいただくことなどを行っています。

【委員】 AEDを設置している施設とそうでない施設があるのですが、地域の高齢者が集まっており、何が起こるか分からない状況なので、AEDを設置された方が良いのではないかと思いますがいかがでしょうか。

【川路さんち】 コミセンが近くにあり、スタッフもコミセンでAEDの訓練を受けています。現状では、何かあったらコミセンへ走り、AEDを借りようと考えています。

【委員長】 ありがとうございます。以上をもちまして、第1グループのヒアリングを終了いたします。

運営団体ヒアリング 第2グループ

(あおば、花時計、そ～らの家、月見路)

【委員長】 それでは、第2グループのヒアリングを始めたいと思います。まずはあおばから宜しくお願いいたします。

【あおば】 今年度11月に10周年記念行事を行い、無事終了することができました。138名という多くの方にご参加いただき、盛大に行うことができました。

あおばは、「地域のおばあちゃんの家」をコンセプトにあらゆる親子を支援してまいりました。就労している母親と比較して、専業主婦の育児の負担が大き

いという報告もあります。地域みんなで支え合い、支援されているという安心感の中で、孤立することなく楽しい子育てができるよう3つの事業で支援させていただきます。

1つはひまわり事業です。保護者の方々の多様なニーズにお応えし、安心できる環境の中でお子様をお預かりするという事業です。この事業はリフレッシュや就労、資格取得はもちろん、保護者の体調不良、家族の急病、介護、出産、夜勤、出張による宿泊など、多様な保育に対応できるように努めてまいりました。

また、あひる事業では、「孤育」が社会問題となっていく中、家庭で子どもと1対1の保育で息詰まっている保護者が、仲間同士で繋がっていく場所となるよう努めています。昨年度の実績から、あひる事業は年間利用者数が1,704世帯あり、その内無料日は1,508世帯、有料日は201世帯が利用されています。

はあと事業では、保護者がスタッフに育児の不安や悩みが話せるような雰囲気づくりを心掛けています。

あひる事業の有料日につきましては、保護者の方もスタッフとゆっくり話ができる日として利用されています。

地域へのPRについて、あおばは吉祥寺北町を中心としていますが、PRとして特別なことはしていません。保護者の方達の口コミにより皆様に来ていただける場となっています。また、子ども向けのテンミリオンハウスはあおばだけなので、吉祥寺北町に限らず武蔵野市内全域からのニーズがあるため、運営団体が開設しているホームページ内にあおばのページを設置し、そこへ毎月行ったことをアップしています。更に、武蔵野市内にある子育て施設にあおばのリーフレットを置かせていただくことや、運営団体であるひまわりママが各個人宅へ伺って事業を行っているため、そこでご紹介させていただいています。

【委員】 2点伺います。

- ① 市内で吉祥寺北町以外の地域から来られるところには、どのような傾向があるのでしょうか。
- ② 色んな地域から来所されたお母さん同士が繋がることについて、何か意識的なことを行っているのでしょうか。それとも、自然発生的なものなのでしょうか。

【あおば】 吉祥寺北町以外の地域から来られる方々の傾向としては、遠くでなかなか来ることができない方の場合、まずは市報に掲載している月1～2度の支援講座に申し込まれることが多いです。その支援講座をチャンスにあおばを体験いただき、次から遊びに来られる方々や、その際に預けられている子ど

もの様子を見て、安心して登録して下さる方等がいます。また、0123はらっぱ・吉祥寺やおもちやのぐるりん等、他の施設での保護者同士の話の中からあおばはこれらの施設とは違う家庭的な雰囲気があるということを知り、あおばへと出向いてくださる方や、地域の中に預かってもらえるところがなく遠くてもあおばへ見える方、特に緊急での対応をしてくれるところがなくあおばへ来所される方がいます。

あおばに来所された様々な地域のお母さん同士の結びつきは、特別に意識的なことはしていませんが、年間17回行っている支援講座ではいろいろな地域の方々が見えるため、お母さん同士の繋がりが広がり、また、あひる事業でもお母さん同士が自然に結びつき、お母さん達の間でネットワークが形成されているように感じます。昨今は携帯電話でのアドレス交換により、あおばが遠くても、また、ご家族同士が遠くても連絡を取り合い、あおばで会うという約束がお母さん同士の間で広がっているように見受けられます。

【委員】 事業計画について、有料の事業と無料の事業がありますが、事業計画書内の年間利用者数の数字は有料事業の利用者数ということでしょうか。また、無料の利用者数は何名程いらっしゃいますか。

【あおば】 あひる事業の無料の利用者数は年間で1,508世帯となっています。年間利用者数の約3,000人という見込みは、無料と有料の利用者数を合わせたものです。あひる事業の年間利用者数1,704世帯というのは人数ではなく世帯なので、人数とすると大体2倍することになりますので、約3,000人と見込んでいます。有料日の利用は昨年度201世帯でしたが、もう少し増やしたいということから、来年度は有料日の利用を1日3世帯として計算しています。

【委員】 有料と無料で比較しますと、無料の方が利用の多い日ということでしょうか。

【あおば】 圧倒的に無料の方が多いです。

【委員】 孤育が社会問題ということですが、支援が必要な親子がいた場合、相談先は保育課になると思いますが、健康課（保健センター）へ相談することはありますか。

【あおば】 主に子ども家庭支援センターと保育課へ相談することが多く、健康課（保健センター）とは直接やり取りをすることはありません。

【委員】 運営団体の活動内容の中で、NPO補助金事業を活用されていますが、この事業とあおばの活動に関連性はありますか。

【あおば】 あおばをPRするために、昨年度からこの事業の会場をあおばに

設定して、事業を行いました。

【委員】 その他委託費の中に耐震診断費用が計上されていますが、これが行うのではないのでしょうか。

【あおば】 耐震診断は、建物がかなり老朽化しているということもあり、耐震診断をした方が良いという市からの指示です。

【委員】 事業の受け手が行うのではなく、施設を提供している側が行うのではないかと思います。このことについては、後程事務局に確認します。

【委員長】 ありがとうございます。続いて、花時計お願いいたします。

【花時計】 花時計は多くの方に支えられて、これまで活動することができました。利用者は最高齢で 93 歳の女性の方が通われていますが、元気よく講座に参加されて、生きがいを持って過ごされています。世代間交流を行っていることから、花時計の利用者は 0 歳～100 歳とうたっており、毎日たくさんの乳幼児親子に来ていただき、伝統文化に触れていただきたいという思いから小学生の茶道講座やお琴を実施し、地域の方々・高齢者の方々に花時計へ来ていただき、地域の居場所として花時計は根付いてきていると実感しています。

女性の利用者が多く、男性は登録者の内 10%程度となっています。講座に来られる方や食事のみ利用される方、また、囲碁を準備しているので月 2 回ほど 2、3 名の男性が来られ、囲碁を楽しんでいる状況です。

来年度の事業について、前年度の内容を引き続き行っていきますが、7 年間の活動の中で欠かせないイベントが 2 つあります。それは、4 月に行う昔遊び伝承していくことを地域の方達と一緒に行うイベントと、11 月に行う講座に参加されている方々が発表するイベントで、高齢者も大変いきいきとしていると思いますので、これらは絶対に欠かせないイベントと認識しています。

日々の事業としましては、講座と地域住民向けのイベントを中心にっていきます。

また、今年度は世代間交流事業の一つとして、1 つの作品を 0 歳～100 歳の方まで全員で作りに上げていくことを考えています。これを行うことによって、達成感や満足感を持つことができ、自然な形で交流ができるのではないかと考えています。

その他、お母様達より、お子様がすぐに大きくなってしまおうのでお下がり交換会を季節ごとにやって欲しいという提案がありましたので、実施を検討しています。

境南地域社協と行っている毎月第一木曜日のおしゃべりサロンは、今年度から食事を交えて、その後もおしゃべりをするという内容で根付いてきましたので、来年度も継続して行い、一人でも多くのお一人住まいの方にご利用いただけるようにしたいと思います。

認知症サポーター養成講座と家族介護支援講座について、在宅介護支援センターとの共催で広く地域の方達に呼びかけて行っていく予定です。

8年目を迎えるため、講座に通われている方も80歳以上の方が70名強おり、高齢の方が増えてきています。お一人お一人を受けとめ、細かな対応を心掛けていきたいと思えます。また、新しい利用者が講座等に取り組んでいけるよう、スタッフも気配りが必要になると考えています。

【委員】 2点伺います。

- ① 世代間交流事業の一つとして、0歳～100歳までの方で作品を作り上げるということですが、具体的な内容を教えてください。
- ② これまでに利用されていた乳幼児について、7年経過すると大きくなると思えますが、そのような方達がまた花時計に来所することはあるのでしょうか。

【花時計】 世代間交流事業で行う作品づくりについて、墨田区役所のリバーサイドホールにあるタペストリーをヒントに行いたいと考えています。研修を兼ねて3月に見学へ行く予定でいますが、作品については大体の構想はできています。

乳幼児として通われていたお子様について、小学生となってお琴や茶道の講座に来られることや、世代間交流イベントの時に折り紙の講師になっていただきたくなど、花時計との関係が完全に途切れるということはありません。

【委員】 資金計画について、時給880円のデイサービス非常勤職員スタッフ賃金と時給840円のその他非常勤スタッフ賃金の支出を分けて計上していますが、新しい職種が増えたのでしょうか。

【花時計】 時給840円のその他非常勤スタッフ賃金は、調理のみのアルバイトの方の賃金となります。その他のデイサービススタッフは、それぞれ担当の講座や事務作業を持っているため、調理のみの方との賃金差を設けました。

【委員】 このことはスタッフの皆さんは了承しているのでしょうか。

【花時計】 アルバイトスタッフは会議やその他の運営に関わることはなく、調理のお手伝いのみとなり時間も短いので、他のスタッフとは少し違うものと認識しています。

【委員】 児童の講座の実態について、それぞれの講座に通われている方は同

じ方でしょうか。

【花時計】 児童講座の実利用人数は 16 名です。お琴は先生が急逝されたため、お琴を利用している児童へは現在対応できておりませんが、茶道と手芸で 14 名の方が通われており、それぞれ別の方が利用しています。

【委員】 花時計では地域懇談会として、地域の福祉の会や民生委員の方等との交流を行っていますか。

【花時計】 福祉の会の運営委員会へはスタッフが出席しています。また、毎月第一木曜日におしゃべりサロンを実施し、民生委員の方が中心となって、隔月で各丁目の民生委員の方がいらっしゃって、一緒に参加されております。

【委員】 隔月で丁目ごとに民生委員が参加されているとのことですが、これは民生委員からの要望ですか。

【花時計】 境南福祉の会からの要望で、担当を決めて行った方が実施しやすいということから、そのようにしています。例えば、1 丁目だからと言って 1 丁目の方のみの参加とは限りませんが、1 丁目の時は特に 1 丁目の方へお声がかかることが多いと思います。

【委員】 丁目単位で動いているようですね。

【花時計】 丁目では活発に活動されているので、スタッフは必ずそこに入るようにしています。

【委員】 丁目単位だけではなく、入り混じって活動される方が良いのではないかと思います。

【花時計】 運営委員会の時にそのような話をしておきます。ただ、食事をしての活動なので、おしゃべりサロンだけで全ての食数が占められてしまう訳にもいかないと考えています。

【委員長】 地域住民向けのイベントの中にコンサートとありますが、これは具体的にどのような内容なのでしょうか。

【花時計】 本日も行ってきたところですが、クリスマスコンサートを実施しています。今回は武蔵野市のボランティアセンターに登録されているハーブの方にお越し、コンサートを実施しました。地域の方どなたでもご利用いただけるよう市報等で広報しています。その他、ボランティアセンターの方やお知り合いの方にお越ししてコンサートを実施しています。また、近所には東京フィルにいらっしゃった方がおりますので、その方のご希望もあってコンサートを実施しています。

【委員長】 ありがとうございます。それでは、そ～らの家お願いいたします。

【そ～らの家】 そ～らの家はスタッフがほとんど変わることになり、様々な技術を持った若い方が地域で活動していただく形となりましたので、大変楽しみにしています。また、その若いスタッフが土曜日の開所に意欲的だったため、来年度の4月から土曜日を開所することにしました。土曜日は、世代間交流や趣味の場を提供し、これまで実施してきたフラワーアレンジメントの「あがばんさすの会」も継続して実施していきます。

そ～らの家の特色である入浴事業について、これまで平日の実施は難しい状況でした。厨房で昼食の準備や洗い物をしていると、お風呂のお湯が全然出なくなってしまうので、結局午後2時過ぎにご利用いただくことになってしまいました。しかし、今後開所する土曜日ですと、午前10時からご利用いただけたと思います。季節に合わせたゆず湯などもやっていけたらと考えています。

明日クリスマス会を実施するのですが、利用者や藤村学園の生徒を含め総勢90名程の方にご参加いただく予定です。藤村学園の文化部の皆さんに昨年引き続き来ていただけるので大変嬉しく思っています。また、明日はそ～ら合唱団として利用者が20名近くデビューするので、楽しみにしています。バイオリニストの豊嶋泰嗣氏にも来ていただく予定です。

新しいスタッフのアイデアについて、現段階で何度か顔合わせはできていますが、細かい内容については打合せができていません。1月から若い力を借りてやっていきたいと考えています。ただ、月曜日から金曜日までのプログラムについては、これまでそのプログラムを楽しみに通われてきた方がおりますので、そのまま継続して行う予定です。

また、職場体験に来ていただいた中学生等がそ～らの家のミニ祭りやクリスマス会にも参加したいということで来ていただいています。そのような方達が、どんどん育ってボランティアをしていただけるようになれば、大変喜ばしいことだと思います。

【委員】 入浴事業について、具体的な実施内容を教えてください。

【そ～らの家】 1日に何人の方が利用されるのは難しいと思います。1回の利用に対して、お湯を抜き、全て洗ってからまたご利用いただくようになります。また、ゆっくり入られる方は1時間入浴されます。よって、1日1人が限界ではないかと思います。現在では視覚障害者の方にご利用いただいています。

す。週1回～2回のご利用となっています。

【委員】 2点伺います。

- ① 1日の平均利用が10名となっていますが、そ～らの家は他のテンミリオンハウスに比べスペースも広いため、もう少し多くの利用者を受け入れる努力が必要なのではないかと思いますがいかがでしょうか。
- ② 乳幼児の受入れを計画されていますが、これは喫茶の利用だけをお考えでしょうか。また、スタッフとの交流はあるのでしょうか。

【そ～らの家】 土曜日の開所は初めての試みのため、1日1人、2人の利用かもしれないという不安があります。世代間交流は初めて行うので、これからスタッフと内容を詰めていきたいと思えます。今までですと1日平均15～16名にご利用いただいていたので、その通りになるよう努力したいと思えますが、新体制になってからの初めの1年は少し様子を見たいと思えます。

世代間交流の中でのスタッフとの交流について、お互いに話をすることや、手づくりの物を作ること、サンドイッチを一緒に作ることなどができるのではないかと考えています。

【委員】 2点伺います。

- ① 広範囲に配布している広報誌「そ～らの家だより」について、反響はありますでしょうか。
- ② ムーバスの路線について、その後の進捗状況はいかがでしょうか。

【そ～らの家】 ムーバスの路線について、1時間に1本通っている状況ですが、交通対策課が想定していたよりも乗車人数が少ないとされています。高齢者施設の前を通るので、人数とは関わりなくムーバスを通して欲しいと話してきましたが、最終的には人数ということなので残念に思えます。私達としましては、一本置きぐらいに通って欲しいと願っています。吉祥寺南町5丁目は高齢化率が市内でも非常に高く、ムーバスが通っている道はほとんど高齢者のいる世帯です。ご近所からはムーバスが通るようになって助かったという声も寄せられました。そ～らの家に来られる方全てがムーバスを利用している訳ではありませんので、乗車数は今後増えてくると思えます。

広報誌は頻繁に出せていませんが、吉祥寺南町全域と吉祥寺東町3、4丁目に配布しています。配布による反応がすぐにあるということはなく、これまでを見てきても口コミで利用者が拡大していくことの方が多いと思えます。

【委員長】 PRのために特別な対策や考え方はお持ちではないのでしょうか。

【そ～らの家】 書面で見ても、すんなりそ～らの家に行こうとな

る方は少ないです。また、家族の一押し、二押しがあると思ってみようかという気持ちになっていただけるようです。私達も様々な地域の活動場所へ出てはPRしています。

【委員】 PRは根気よく続けていくことが大事だと思います。そうすることで、認知度にも繋がってきます。

【そ~らの家】 はい。私達も出られるところでPRしていきたいと思います。

【委員】 資金計画について、収入では利用者数減による利用料収入が減少しているのに対し、食事費収入が昨年より増えていることや、支出では非常勤職員を減らして、月給を追加するなど様々な見直しが行われています。これらについては、何か検討されて決めたのでしょうか。

【そ~らの家】 今までは、事務が午前8時～午後5時まで1人、厨房を3人体制とし、午後2時まで1人、午後5時まで2人となっていました。今回から若いスタッフが入りますので、午後2時で全てやり終えてしまうのではないかと思います。よって体制を変えて、職員給与等を見直しました。

【委員長】 ありがとうございます。それでは続いて、月見路お願いいたします。

【月見路】 来年度は3つのことを重点的に動きたいと思います。

1つは、手づくりの昼食を提供することです。美味しいものに人は集まるとい話もありましたが、まさにその通りだと考えており、手づくりの昼食を提供したいと思います。予約制で、前日の午前10時までにご予約いただければ、次の日の昼食をご用意したいと思います。最大10食としていますが、現運営団体が1日平均6食とされていたので、1日平均6食の見込みで予算をたてています。これから準備を進め、14食あたりまでは準備できるようにしたいと考えております。

2つめは、異世代間の交流です。近隣のお母さんや赤ちゃんが立ち寄れるスペースを提供していこうと思います。この乳幼児親子の受入れは、7月以降に実施することを考えています。と言いますのも、4月の開所時は利用者と新しい運営団体「グループ撫子」の交流をメインに行い、まずは利用者との繋がりを持つことが大切だと考えているからです。その上で、7月に地域住民向けイベントの夏祭りを実施予定なので、そこで月見路に興味を持っていただけるお母さん達にご案内できるようにしたいと思っています。

3つめは、広報誌の発行です。市役所のホームページ内にテンミリオンハウ

スのページがあるということなので、そちらを活用させていただき、ひと月ごとのプログラムやメニューを掲載したいと考えています。また、月見路では独自にブログを開設し、月見路のイベント案内や1日の動きなどを告知できたらと考えています。中には、パソコンをご利用になられない方もいらっしゃると思いますので、ひと月に1回広報誌を発行し、ひと月ごとのプログラムやメニュー等を載せて利用者等へ広報していきたいと思います。

スタッフ名簿には12名メンバーが入っていますが、この計画書を提出した後に1名スタッフとしてお手伝いしたいという方がいました。また、ボランティアとして2名参加いただける方もいます。1名は看護師で、月に1度利用者の血圧を測り、健康相談を実施していただける方です。もう1名は、子育て支援に詳しい方なので、7月以降乳幼児親子の受入れが始まった時に、ボランティアとして参加いただける方です。

【委員】 広報誌の発行について、資金計画書を見ますとこの広報誌の発行を委託されるようですが、委託に出すことによって、施設側の運営に関する想いなどはどのように反映されるとお考えでしょうか。

【月見路】 文章上では委託となっていますが、委託先の方もグループ撫子の運営理念に賛同してくださっている方で、事業提案をしたプレゼンテーションのパワーポイント資料を作成していただいた方です。ただ単に業者へ委託するのではなく、地域の方で私達の想いに賛同してくださる方へお願いしたいと思いましたが、私達の想いなどは反映されると考えています。

【委員】 月見路の近所にはこどもテンミリオンハウスあおばがありますが、月見路の乳幼児親子の受入れはお子さんだけを預かるのではなく、必ず親子で利用されるという解釈でよろしいでしょうか。

【月見路】 お子さんだけではなく、必ず保護者の方も一緒に来ていただきます。どちらかと言いますと、高齢者の方と交流をして、高齢者の方のお知恵をお借りしたいなどという方に来ていただきたいと考えています。

【委員】 夏祭りについて、今まで月見路では利用者の方への夏祭りを実施していましたが、来年度は地域住民向けに夏祭りを実施することなので、具体的にどのような形で行うことをお考えでしょうか。

【月見路】 今年の月見路の夏祭りに参加させていただいた際、かき氷を出していただいたので、施設内で地域住民の方へ向けたことを行うのではなく、外で地域住民の方にPRできるような方法を考えています。

【委員】 スタッフの配置と資金計画書の収支の関係について、平日は4名体

制ということですが、実際に名簿に載っているスタッフの方は、1週間に何日ぐらい入る予定でしょうか。

【月見路】 仮に4月分のシフトを作成しましたところ、2名程薄いかなと思いましたが、急遽2名募集しようと考えました。既に1名名乗りを上げてくださっていますので、3月までにもう1名入っていただけたらと思っています。

1週間のローテーションとしましては、責任者として週2日入る方、シフトで週3日入る方がおり、シフトだけで入る方も週2日が平均です。土曜日も必ず2ヶ月に1度入ることを条件にしていますので、月によっては週3日入る月もあると思います。

【委員】 業務の引継についてはどのようにお考えでしょうか。

【月見路】 できるだけ曜日は決めることにしておりますので、責任者に入る方は曜日を固定しています。翌日への引継については、日誌を利用して行います。また、1週間に1度責任者6名の打合せ、月に1度スタッフ全員の打合せを行い、そこで引継事項等の確認をしていきます。

【委員】 イベントの朝市について、これは現在の運営団体も実施していますが、現在行われている朝市と関係があるのでしょうか。それとも独自で行われるのでしょうか。

【月見路】 私達は継続して行いたかったのですが、現運営団体が朝市を実施していた関係団体へお断りしたとのことだったので、独自に違う形で地域の方達に声をかけ、マーケットという形で実施できればと考え、現在検討中です。

【委員長】 ありがとうございます。以上で、第2グループのヒアリングを終了いたします。

【委員長】 それでは、事業計画の採択に移りたいと思いますが、1つ質問があります。平成24年度運営費補助金額算定一覧表を見ますと、乳幼児親子の受入れを実施するという施設で補助金額が0の施設があります。これはどのような理由でそうなっているのでしょうか。

【事務局】 乳幼児親子を受け入れることによってスタッフ体制を整えている施設へは補助金額を加算し、ただ場所を貸すだけの施設へは加算をしていないこととなります。

【委員長】 テンミリオンハウス事業評価基準には、スタッフ1名の体制を整える等の要件が入っておりませんので、この評価基準の中にその要件を入れるべきではないかと思いますがいかがでしょうか。

【事務局】 何故そこで加算していたかと言いますと、スタッフの体制を組むということで加算していたものであり、そこが不足していたと思いますので、基準の中には入れるべきかと思います。

【委員長】 改正にはならないと思いますが、評価基準の中にその内容を記載していただきたいと思います。

他に何かございますか。

【事務局】 先ほどのヒアリングにありましたあおばの耐震診断の件については、追加で補助金を交付し、耐震診断をあおば運営団体に行っていただくものになっていますので、ここでご説明させていただきます。

【委員長】 ありがとうございます。他に何かございますか。特になければ、提出いただいた計画書を採択するというところでよろしいでしょうか。

→ 委員了承。

それでは、平成 24 年度の事業計画を採択いたします。

（２）平成 24 年度運営団体公募について

【事務局】 資料 3 に基づいて説明。

来年度の公募対象であるこどもテンミリオンハウスあおばについて説明させていただきます。あおばは来年度公募対象となっていますが、現状では施設の老朽化の問題を抱えています。また、子ども家庭部としましては多様な保育施設ができています。具体的には、今年度から新たにグループ保育室をつくり、10 名程度の小規模で受け入れることができるグループ保育室が現在は 4 つできています。児童青少年課では、プレイパークという冒険遊び場の事業を行っています。また、現在検討中ですが、幼稚園の跡地を利用した新たな子育て施設の検討を行っています。このように、小規模で柔軟な運営をお願いするような事業が増えているため、子ども施策の中でこどもテンミリオンハウスをどのように位置づけていくのが課題となっています。今回公募対象の施設となっていますが、こどもテンミリオンハウスにつきましては、新しい仕組みの中で事業評価を行っていく可能性もありますので、ご承知おきいただければと思います。いずれにしましても、年度内には一定の方向性を示したいと考えています。

【委員長】 来年度の運営団体公募について説明がありましたが、このことについて質問等がある方はどうぞ。

【委員】 今のあおばに関する説明について、あおばがテンミリオンハウスか

ら外れるという解釈でよろしいでしょうか。

【事務局】 現在のテンミリオンハウス事業実施要綱ではなく、新たに子ども施策としてテンミリオンハウスのような事業のスキームを作り、そこで実施する可能性があるということです。

【委員長】 公募の手続きは7月から始まります。あおばにつきましては、それまでに方向性を出すということでしょうか。

【事務局】 年度内には一定の方向性を出し、公募スケジュールに間に合う形で委員会に報告したいと考えています。

【委員長】 他に質問等ございますか。特になければ、本件は事務局の提案通り行いたいと思います。

(3) 平成23年度テンミリオンハウス事業採択・評価委員現場視察について

【事務局】 資料4に基づいて説明。

【委員長】 このことについて何かご質問等ございますか。特になければ、事務局の提案通り行いたいと思います。

(4) その他

【委員長】 各委員の方や事務局から、他に何かございますか。

【事務局】 事務局からは特にありません。

【委員長】 各委員からも特にありませんので、以上を持ちまして本日の委員会を終了いたします。

4 閉会

以上